



主な内容

- 12月定例会市議会.....P 2～3
- まちの話題.....P 4～5
- 行政情報チャンネル.....P 8～9
- 暮らしの掲示板.....P10～12
- 戸籍の窓口、1月のカレンダー.....P13

『始まります！申告相談』をP12とP13の間に挟み込んでいます。ご利用ください。

vol.176

2013

1.15

<http://www.city.nikaho.akita.jp>

がんばろう東北

今年1年の無病息災と
家内安全を切に願う

写真：熊野神社獅子舞巡行

振る、廻す、響かせる
出初式の名物「纏振り」



齋藤 伸二さん
(平沢／43歳)

平沢で種苗店を営みながら、地域防災の要である消防団に所属。
その中でにかほ市纏振り振興会に所属し、自らも纏を振りながら平沢地区消防団に脈々と受け継がれてきた纏の演技技術を後世に伝えようと頑張っている元気人です。

長さ約2m、重さ約10kg、先端からは馬簾と呼ばれる白く艶のあるいくつもの飾りが垂れ下がる。それが纏と呼ばれる道具です。
その纏を独特の動きをしながら勢いよく振る。それが纏振りと呼ばれる演技です。
纏振りの起源は江戸時代、人々に火事の発生を知らせ、消火活動の目印として始まったと聞いています。現在では防火意識の啓発を目的に纏振りが行われていますが、これを私がやり始めたのは20年以上前、消防団に入団したときにさかのぼります。



纏は、重くて不安定です。それを腕や腰を使って振るわけですから身体に凄い負担がかかります。慣れるまで何度も筋肉痛に悩まされました。また、始めは義務的に行っていた纏振りですが、転機が訪れたのは私が結婚式を挙げた時でした。結婚式で消防団の先輩方が纏振りを余興として披露してくれたのです。その堂々とした演技をみた瞬間、その魅力に引き込まれてしまいました。

伝統の火を消さずに継承したい。

纏を精力的に行うようになってから私は、纏から多くを感じ、伝統というものは地域の宝であり、尊いものであることなど様々なものを学びました。先輩方から指導を受けたことで多くの方々と知り合うこともできました。また、今までこのような活動を続けることができたのは家族の理解があったからこそと感じており、本当に感謝しています。
私はまだまだ未熟ではありますが、この受け継がれてきた纏の技を絶やすことなく後世に伝えていきたいと思っています。それが今まで私に指導してくれた先輩方への恩返しであるとも思っています。市民の皆さん、ぜひ毎年1月5日に行われる出初式に来てください。生の演技を見て、その迫力やカッコよさを肌で感じてください。

あけましておめでとうございます！



今年も良い年でありますように！

作品名：千支の折り紙と貼り絵



勢至保育園
きりん組（年長）

手ひょう美術館
じょうぶにできた！